

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

不安な大勝 シーズン初戦

4 月 17 日 (日) M リーグ (村山地区リーグ) 1 第一節山形電波工業高校 (以下電波) 戦が行われました。電波は 10 年以上前まで一応サッカー部が存在していましたが、訳あって活動停止・廃部となり、中断期間がありました。が、昨年から**山東サッカー部 OB の峯田先生** (IH・選手権を制した山東のレジェンド二冠会²の一人) を新たな顧問としてお迎えし、サッカー部が再発足。もちろん発足したばかりですから、選手が思うように集まらなかったり、集まっても昨年は一年生だけのチームだったりして、厳しい戦いが続きました。しかし、峯田先生と武田コーチ³の情熱により、少しずつたくましくなっているはず (そして今年は一・二年のチームになっている)。山東としては、内容・結果ともにしっかりとしたものを出したい。**いよいよシーズン開幕。**

場所は山形明正 G (人工芝)。「山東のホームグラウンド」と凶々しくも言わせて頂きます! その日朝から雨模様。「せっかく楽しみにしていたシーズン開幕戦なのに、そして昨日まで快晴が続いたのに、雨か・・・」とテンションは下がるも、「だったらなおさら人工芝での試合でよかった～」と思いき直すことができる。クレー (土) のピッチでの試合だったら、グチャグチャになって大変でしょう。明正さんに感謝。しかし、現場に行ってみると、雨脚が強くなったこともあり、第一試合の山形明正対山形学院戦では選手が予想以上にやりにくそうにしている。要はボールが収まらないシーンが多く、止まったり伸びたりするボールに選手が戸惑っている。山形県リーグ 2 部 B ブロック (山東と同じ Y2B) に在籍し、格上の明正が辛勝する姿を観て、不安が高まる。**山東サッカー部後援会名誉会長の清野総監督と「我らが報道局長」後藤さんも登場。シーズン開幕戦に興奮されたか、清野総監督もいつも以上に気合の檄を飛ばす。**雨の中キックオフ。

試合が始まると、若干の膠着状態を経て、サンペーとユウトの 3 年生 FW 二人が着実に得点を上げてくれる。サンペーは狭いエリアで巧みにシュート、ユウトはハイエナのように味方のシュートに詰めて GK のこぼし際から得点。**はやばやと 6 点**を叩き出す。「M リーグ

¹ M リーグとは、県総体への予選の地区総体の前段となる大会です。ですので、県総体への出場権 (シード権) を与えられている山形県リーグ 1 部 (Y1) 以上の 8 チームは参加致しません (地区総体には一応参加するが)。村山地区ですと、日大山形 (プリンスリーグ東北)、山形中央、東海大山形、山形城北、山形商業 (以上 Y1) の 5 チームは M リーグに参加しません。

² 二冠会には、現保護者会長の鈴木さんをはじめ、前監督の晃先生 (ミサキ、カツミ父) や部報前号登場の鍮水先生など、多士済々の方々がいらっしゃいます。

³ 元中学校の教員でサッカーの指導を長らくされた方です。私も中学生時代、トレセンにて指導を受けました。プレー中「イマノ、イマノ、イ〜マ〜ノ (だんだんとトーンが上がって行く)」と名前を連呼され、私のプレーに不満があることはわかるのですが何を直せばよいのか戸惑ったことを覚えています。

は三年生優先」の方針で臨んでいる山東は、三年生をすべて出場させるべく、タクオとユータローに声をかける。そんな時間帯、三年生 CB シュンが戻りながら裏へのボールに対処する中、相手 FW が迫る。三年生 GK クロサカはゴールを外してボールを受けようとゴールから離れる動きをする⁴。しかし、シュンは GK に前に出てクリアしてもらいたかったか、戻りがきつそう⁵。そして、ゴールを外したクロサカの方に別の相手選手が詰めてきており、クロサカに簡単に出せなさそう。「クロサカ広がり過ぎだろう（相手が逆から詰めてきているのが見えてないのか、それじゃあシュンが出せないだろう）」とイラッと来たその瞬間、後方に背負った相手をシュンが逆に（外に）かわしにかかり、ズルッと滑りころぶ。そして相手にボールを突かれ、失点。**何とも格好の悪い失点**。背負った相手をかわしにかかるにせよ、左足でボールを持ちながら回転し、相手をボールから遠ざけるプレーが求められた。いや、そもそもリスクなそんなプレーをせず、逆サイドに大きく蹴っても良かったし、最悪 CK に逃げてても良かった。盛り下がる失点とはまさにこのこと。当然電波サイドは大喜び。特に保護者の黄色い？声援がスゴイ。試合が再開されると、しばらくして**今度はきれいに崩されて、失点**。6 得点後の 2 失点。電波にとってこの追加点は正真正銘「自分たちであげた得点」であり、1 点目以上の価値がある。そして山東にとっては、1 失点目以上の反省点が含まれている。なぜあんなったのか、どこがどう悪くてあんなったのか、そうならないための適切な対応は何だったのか、一つ一つ確認する必要がある。ともかく、やってはいけない追加点。そして前半終了。

ハーフタイムでは、失点云々以上に、CK においてチャンスを全く生かしていないことを叱責。ワタコーはじめ、期待の選手に檄を飛ばす。すると後半ほどなくして、右 CK にてサンペーが蹴ったライナー性のボールを、**途中出場の三年タクオがゴール中央付近で高い跳躍からヘディングでボールをネットに突き刺す**。タクオは低い伸長の割にヘディング強いとは思っていましたが、ビックリするほどファインシュート（ファインヘッド）でした！！これで前半最後の悪い流れを一応拭い去ることができた。左足の職人 DF マツキを投入し、これで三年生 9 名を全員しかも一度にピッチに立たせることができた⁶。マツキは出場直後は不安定なプレーが続きましたが、その後はそつなくプレー（ただし、もうちょっと左足をさく裂させてほしかった）。その後も優位に試合を進め、さらに三点追加し、**結局 10 対 2 で試合終了**。

二桁得点できましたが、二失点とは何とも不安定な戦いぶり。守備の課題は満載ですが、攻撃においてもセットプレーを無駄にすることが多すぎるし、何より、**相手をゴール前で釘付けにしてからの攻撃がお粗末**でした。相手のブロックの外側でパスを回し、ミドルシュートに頼ったり、ただ単にセンターリングを放り込んだり。もちろんミドルシュートもセンタ

⁴ 具体的に言うと、左サイドからの裏へのボールなので、シュンは山東ゴールを左手に見ながら戻る動きをしている。クロサカはゴールを外して受けようと右側に移動する。そうすれば、バックパスがずれた時に（または GK が空振りした時に）オウンゴールになりにくいし、何より味方だけでなく相手からも離れる動きになるので、余裕を持ってバックパスを受けることができる。

⁵ **気持ちはわかるがそうやってはいけない**。FP は GK の判断に従わなければならないのが鉄則で、それが仮に誤った判断だったとしても、ともかくもその判断の通りにプレーを完遂しなければサッカーが成り立たない。**シュンは GK にフレーを要求する癖がまだ抜けていない（自分は GK からフレーを要求される立場だということはまだ血肉になっていない）**。これまでこの癖によって手痛い思いをしてきたはず。

⁶ もう一人、FW フミキがいるのですが、応援団長と掛け持ちのため、4 月 23 日（土）野球の東南定期戦に向けた応援団の団活により、M リーグを休みました。4 月 24 日（日）の M リーグ第二節には顔を出すと思われず。

ーリングも悪くないのですが、他に選択肢を作れず仕方なくやっている（やらされている）のなら問題あり。そういう狭いところで自信を持ってドリブルするために冬場トレーニングしてきたはずですがね～。ドリブル以外にもパスに関して言うと、「一瞬相手マークを外して狭いところでボールを受ける」+「一瞬マークを外した味方選手をしっかりと観てその機を逃さずパスをする」ということがまだまだできていない。だから狭いところで選択肢を作れない（選択肢を見逃す）シーンが多くなる。まだまだですね。

さて、今週末からは、いよいよ山形県リーグ（Y2B）開幕します。実は4月10日（日）にすでにリーグは開幕しているのですが、いろいろな事情で山東にとっての開幕は今週末となった。対戦相手は今シーズンすでにY2Bにて山南を破っている酒田西。酒田西は県新人で日大山形も破っている。難しい試合になるでしょうね。日曜日はMリーグ第二節天童高校戦。連戦は厳しいですが、県総体だって選手権だって連戦がある。弱音を吐いている場合ではない。というより、連戦に強くないチームは勝ち残れない。

今週末も応援よろしくをお願いします。

4月23日（土）Y2B 第一節 VS 酒田西 12:00～ @米沢工業

4月24日（日）Mリーグ第二節 VS 天童高校 12:40～ @山形明正